

## 「やりがい」を感じることでできる授業

### 単元名

働くために必要なこと

### 単元における生徒の実態

日時	平成24年 2月17日(金) 2校時	
対象	高等部1年2組・5組	指導形態 生活単元学習
場所	高等部2年2組教室	指導者 瀬川(CT)北原(ST1) 松崎(ST2)

本グループは、知的障害学級1年2組の生徒7人と重複障害学級①の1年5組の生徒2人の計9人(男子6人女子3人)で構成されている。入学当初は、友達同士のかかわりが少なく、会話も多くなかったが、現在ではそれぞれのリズムで行動しながらも、活発にかかわり合う姿が見られるようになってきた。これまで生徒は生活単元学習(進路学習)の中で、1学期は「自分の生い立ち」や「家族」、「自己PR」等自分のことについて、2学期は「様々な仕事」、「仕事の方法」、「職場施設見学」等を通して、働くことについて学んできた。そのことで過去を肯定的に捉え直そうとする姿や、働くことの楽しさ、厳しさ、そして毎日働いている保護者への感謝の気持ちを感じ取る生徒も見られるようになってきた。

10月末の後期産業現場等における実習では、一人一人の課題もより明確になった。介護施設で実習を体験した生徒は、介護の仕事の本質であるお年寄りを大切に思う気持ちを知ることができた。その反面、2週間という長期の実習の中で、体力が続かなかったり、体力不足から集中力が途切れ、与えられた仕事が雑になってしまったりする等の課題が明らかになった。また生徒の体力が不足していることに併せて、成功体験が少ないこと等により、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないこと等の課題も明らかになった。

### 単元の意義・価値

本校では、研究紀要にあるように、働くために必要な力を「学びのベース」「コミュニケーション」「意思・選択・決定」「学びの力」「活用の力」の五つの能力領域として設定している。働くために必要な項目を整理すると、健康の保持・増進、あいさつ・身だしなみ、人とのかかわり、金銭の取扱い、役割の理解、選択・決定等が挙げられる。これらは、本校の五つの能力領域の下位項目にもあり、文部科学省の示す働くために必要な力にもつながるものだと考えている。このようなことから、働くために必要なことに焦点を当てて学習を展開することは、特別支援学校にも求められることであり、一人一人の生徒の課題から考えても意義のあることである。

また本単元を通して、一人一人の生徒が身に付けておくべき事柄を知ること、社会人・職業人として自立した社会の形成者の育成という観点から、生涯にわたって学び続ける意欲の向上や社会人・職業人としての基礎的な資質・能力の向上につながり、生徒の望ましい勤労観・職業観の育成のためにも価値があることである。

以上のようなことから、後期産業現場等における実習を終えて一人一人の課題が明確になった今、本単元を設定して生徒とともに「働くために必要なこと」を学習していくことは非常に重要なことだと考えられる。

## ねらい

本單元では、健康管理、金銭の扱い、人との付き合い方、余暇の過ごし方、決まりや制度の五つの学習活動を、実践を中心としながら進めることで、働くことの意義や働くために必要なことを理解し、身に付けさせたい。

## 指導観

本單元では、後期産業現場等における実習を終えて明らかになった生徒一人一人の課題をもとに、「働くために必要なこと」について健康管理、金銭の扱い、人との付き合い、余暇の過ごし方、決まりや制度の五つの学習活動に絞り、一つ一つ具体例や実践をもとに学習を進めていく。

まず、働く理由について深く掘り下げる。金銭や生活のためという理由は分かりやすいが、自我を確立し、価値観を形成していく段階である生徒へは、「楽しみ」や「喜び」を含む「やりがい」を意味付けることで、働くことの意義をより深く知ることができるようにする。次に、「働くために必要なこと」を実践的に進めていく。その際、体験活動を学習の中心に設けることで、生徒が主体的に学習を進められるように配慮し、達成感や成就感を味わうことができるようにしたい。また授業時間だけでなく、教育活動全般を通じて継続的に指導していくことで、働くことや自分の役割に対して「やりがい」を感じることでできる生徒に育てていきたい。つまり、本單元はねらうキャリア教育の視点である「活用の力」を中心に「コミュニケーション」「意志・選択・決定」の能力領域が含まれている。

## 展望

本單元での体験活動は、自己有能感を高め、「やりがい」を感じることで、2年時の現場実習や進路学習における学習意欲につながり、自らの夢や社会生活に対するあこがれをもつことになると考える。

## 指導目標

### 全体目標

目標	添付する項目
○ 働くことの意義を考えたり、働くために必要なことに興味・関心をもって学習に取り組んだりすることができるようにする。	I-3, II-1, II-2, II-3
○ 働くために必要な体力、金銭の扱い、人とのかかわり方や余暇の過ごし方を身に付けることができるようにする。	I-1, I-4, III-2, III-3 IV-3, IV-4, V-2, V-3

### 個人目標

	目標	指導の手立て
A	○ 広い視野で働くことの意義を考えることができたり、働くために必要なことを発表したりして伝えることができるようにする。 ○ 働くために必要な、人とのかかわり方を身に付けることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物を用いたり、実践的な活動を行ったことで、意欲的に学習に参加することができるようにする。</li> </ul>
B	○ 生活をするため以外の働くことの意義に気付くことができたり、自信をもって発表したりすることができるようにする。 ○ 働くために必要な体力や、余暇の過ごし方を中心に身に付けることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の中で、緊張による身体の硬直が起こらないように、発表しやすい雰囲気づくりを行う。</li> <li>・ 校外学習等の体験活動では、福祉タクシーの利用等、移動方法を配慮する。</li> </ul>
C	○ 働くことの意義を選択したり、働くために必要なことを知ったりすることができるようにする。 ○ 働くために必要な人とのかかわり方を中心に、教師と一緒にロールプレイングすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真やVTR等の視覚的教材を用いることで、学習に見通しをもつことができるようにする。</li> <li>・ STが手本になり活動を行うことで、安心して学習に取り組むことができるようにする。</li> </ul>

## 指導計画

全12時間 (本時 7 / 12)

次	主な学習活動	キャリア教育の観点	時間	資料・準備
一	1 社会人とは 働くことの意義や目的	II-1 II-3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やりがいノート</li> <li>・ カレンダー</li> <li>・ 日程表</li> <li>・ 写真カード</li> </ul>
二	2 働くために必要なこと (1) 健康管理 ・ 食生活・体力づくり (2) 金銭の扱い ・ 買い物学習 ・ 銀行の仕組み ・ ATMの使い方 (3) 人とのかかわり方 ・ あいさつ・言葉遣い・上司との付き合い方 (4) 余暇の過ごし方 ・ 休憩時間の過ごし方・休日の過ごし方 (5) 決まりや制度 ・ 住民票の取り方・ハローワークの活用	V-2 V-3 IV-3 I-1 I-4 I-4 I-1 IV-4	10  5 / 10 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ やりがいノート</li> <li>・ カレンダー</li> <li>・ 日程表</li> <li>・ 写真カード</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ レジスター</li> <li>・ キャッシュカード</li> <li>・ 校外学習計画表</li> <li>・ 婚姻届等各種書類</li> </ul>

## 本時の学習

### 1 目標

#### (1) 全体目標

ロールプレイングを通して、年上の人と接する際に気を付けることを考えることができる。

#### (2) 個人目標

	目標	指導の手立て
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年上の人に対する適切な接し方を、大きな声で発表することができる。</li> <li>○ 敬語の使い方や目線、適切な距離を意識しながら、相手と接することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敬語の使い方や、目線、距離以外の表情や姿勢等接し方のポイント以外でも気付いたことを指摘することで、年上の人とのより好印象な接し方を身に付けることができるようにする。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを、自信をもって堂々と発表することができる。</li> <li>○ 敬語の使い方や目線、相手との適切な距離を意識して、接することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上司との練習の際は、移動スペースを設けておくことで、スムーズに練習を行うことができるようにする。</li> <li>・ 身体に緊張が見られた際は、水分補給やストレッチを行い、リラックスさせる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見通しをもって活動に参加することができる。</li> <li>○ 教師と一緒に、相手との距離や目線を意識しながら接することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートや発問等は絵や写真等の教材を用いて視覚的に示し、イメージを膨らませることができるようにする。</li> </ul>

### 2 指導にあたって

これまで生徒は「働くために必要なこと」のテーマで実践的な活動を中心に学習を積み重ねてきた。健康管理での授業では、一人一人の実態に応じて、サッカーやフライングディスクや散歩等興味・関心のある運動を選び、体験し、自分に合った体力づくりの方法を知ることができた。また、金銭の扱いの学習では、校外の飲食店で好きな食べ物を注文したり、料金を支払ったり、おつりを受け取ったりする等の金銭の扱いについて学習した。銀行では銀行員に銀行の仕組みについて教えてもらったり、ATMでキャッシュカードによる金銭の収受の様子を実際に見たりして、金銭について考える姿が見られるようになってきた。

生徒は前時までの学習で、気持ちのよいあいさつの仕方や敬語の使い方について学んできた。前時までの学習を通して、生徒は敬語の使い方は知ることができたが、敬語を使う際の相手との目線や距離感、表情等を意識して実践することができていない課題が見えてきた。そこで本時では、年上の人とのかかわり方を考え、実践できるよう以下のことに配慮して指導を行っていきたい。

- 「みつめる」の場面では、前時までの学習を簡単に振り返ることで、学習に見通しをもって取り組むことができるようにする。
- VTRや教材が見やすい座席の位置や座り方（姿勢）に留意し、集中して取り組むことができるようにする。
- 一人で記入することが難しい生徒に対しては、STが言葉掛けや補助をしてワークシートに記入できるようにする。
- 発表の際は自分の考えを積極的に発表できるような環境づくりに努め、適宜賞賛し自信につなげるようにする。
- VTRや写真等視覚的教材を用いることで、学習に対して関心を高めることができるようにする。その際、VTRではSTが誇張して演技することで、課題を分かりやすく理解できるようにする。
- VTRの中で演じる社長役のSTが授業の中でも再登場することで、生徒の学習に対する意識を高めることができるようにする。
- 「ふりかえる」の場面では、互いのロールプレイングに対して感想を述べ合うことで、成就感を味わうことができるようにする。

### 3 実際

※ 別紙参照

### 4 評価

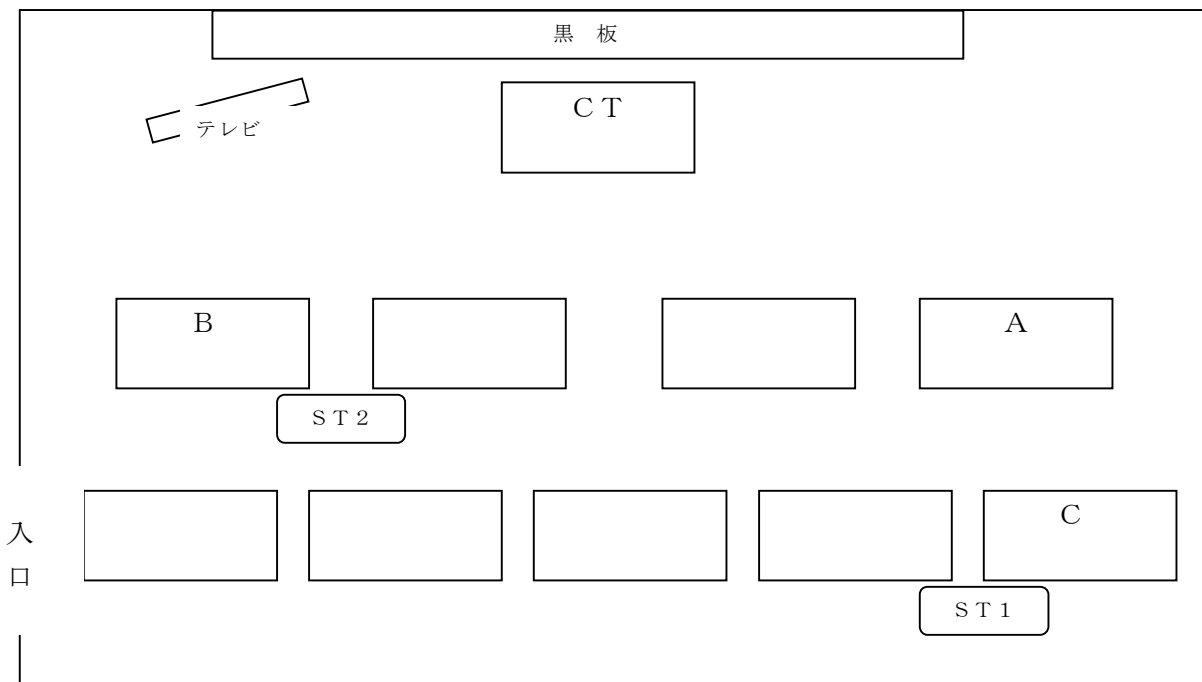
#### (1) 全体評価

ロールプレイングを通して、年上の人と接する際に気を付けることを考えることができたか。

#### (2) 個人評価

	目標	評価
A	<input type="checkbox"/> 年上の人に対する適切な接し方を、大きな声で発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 敬語の使い方や目線、相手との適切な距離を意識しながら、接することができたか。	
B	<input type="checkbox"/> 自分の考えを、自信をもって堂々と発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 敬語の使い方や目線、適切な距離を意識して、相手と接することができたか。	
C	<input type="checkbox"/> 見通しをもって活動に参加することができたか。 <input type="checkbox"/> 教師と一緒に、相手との距離や目線を意識しながら接することができたか。	

### 5 場の設定



生徒の実態

	関心・意欲	人とのかかわり について	「やりがい」に関する実態				産業現場等に おける実習	キャリア教育の 視点から
			みつめる	よそうする	やってみる	ふりかえる		
A	・学習への意欲は高く、積極的である。周囲の話を聞き理解することができる。	・年上の人とのかかわりの中で、経験が少ないためか、相手が失礼だと感じる態度をとることもあるが、誰に対しても穏やかに接することができる。	・VTRを見て、年上の人との接し方の中で、明らかにおかしい部分に気付くことができる。	・多くの意見や考えをもっており、思ったことを積極的に発表することができる。	・敬語の使い方や、目線、相手との距離等を意識しながら実践することができる。	・自らの行動を振り返り、課題に気付く、今後の活動の中で実践したいという気持ちをもつことができる。	・現場実習では、支援員と一緒に地域の民家の草取りや、稲刈り、柿取り等の仕事を2週間行った。	・卒業後は企業への就職を希望しており、「ワニの飼育員」を希望している。
B	・学習に対する意欲が高く、学習の課題を真剣に考えることができる。	・年上の人とのかかわりにも慣れており、敬語も適切に使うことができる。慣れてくると敬語が崩れてくることもある。	・VTRを見て、教師の言葉掛けや、これまでの学習を振り返り、年上の人との接し方で気を付けることができる。	・発表の際に緊張がある、体が硬直することもあるが、気持ちを落ち着かせると、自分の考えを発表することができる。	・板書を見ながら、敬語の使い方や、目線、相手との距離等を意識し、実践することができる。	・VTRを見て、自らの課題に気付くことも、年上の人との接し方の良い所や、改善点に気付くことができる。	・校内実習を中心にいった。校内実習では、資料のホチキス外しを担当し、集中して活動を行うことができた。	・卒業後は本人の得意とする指先を使って製作を行うことのできる福祉施設を希望している。
C	・学習に見通しをもつことができれば、教師と一緒に落ち着いて学習に参加することができる。	・排せつや食事の際の要求等はサインや簡単な発語で相手へ伝えることができる。また苦手なことや、嫌なことは首を振ったり、あごを相手に押し当てたりするサインで伝えることができる。	・アニメ等の関心のある内容であれば、意欲的にVTRを見ることができる。	・教師の働き掛けをもとに文字を書くことができる。感情や気持ちを表情で表すことができる。	・教師の動きを見ながら、模倣することができる。見通しをもつことができなかつたり、したりする時は、嫌がる素振りを見せる。	・VTRを見て、自分の姿を教師と一緒に確認することができる。	・ビーズのひも通しや基盤のテープはがし等の作業を二つの施設で2週間行った。場や空間に慣れると落ち着いて作業をすることができた。	・卒業後は見通しをもちやすい作業を行うことのできる福祉施設を希望している。

過程	主な学習活動	指導上の留意点・やりがいポイント		
		生徒 A	生徒 B	生徒 C
<b>みつめる</b> (15分)	1 始めのあいさつをする。 2 本時のめあてを知る。 年上の人との接し方を身につけよう。 3 本時の学習を知る。 4 年上の人と接する際に気を付けることを、発表する。	全：生徒の号令で授業の始まりを意識できるようにする。 CT：本時の活動を説明し、目標と活動の確認ができるようにする。 ・ 前時の学習を振り返り、年上の人との接し方で気を付けることを思い出させ、日常生活の中で年上の人と接するときに意識していることを考えさせ、発表させるようにする。 ・ 発表の際は、生徒の意見や考えを賞賛することで、充実感を味わうことができるようにする。 (ST2)ワークシートに、年上の人とは具体的にどんな人を指すのかを、産業現場等における実習を振り返りながら考えるようにする。		
	5 STが演じる仕事場での様子をVTRで見る。 敬語を使う・相手との距離 相手の顔を見る・表情・姿勢 6 VTRをもとに、ロールプレイングを行う。	・ 2学期に授業の中でVTRに登場した社長が、再びVTRに登場することで、生徒の興味・関心を高めるようにする。 ・ 社長の立場になって、従業員にVTRのような態度を実際にされたらどんな気持ちになるのかを考えるよう言葉掛けをする。 ・ 卒業後、社会に出たら上司や年上の先輩がほとんどであり、年上の人との接し方を身につけることの大切さを再確認させる。 ・ VTRを見て、従業員の社長に対する態度の中で改善すべき点を考えさせる。その際、VTRを繰り返し流したりすることで、改善点に気付きやすくする。 ・ 年上の人と接する際に気を付けることを参考に、VTRと同様の場面を設定し、年上の人に対する接し方を実践する。その際最初に社長が登場する事で学習への意欲を高めることができるようにする。また社長とロールプレイングを行うことで、ほどよい緊張感を味わわせる。 ・ 敬語の使い方や、目線、距離以外の表情や姿勢以外にも気付いたことを指摘することで、より適切な年上の人との接し方を身につけることができるようにする。 ・ 緊張により、身体に力が入った場合には、水分補給やストレッチを行い、リラックスできるようにし、スムーズにロールプレイングをできるようにする。 ・ 発表後は、言葉遣いや表情等具体的に賞賛することで、満足感を得られるようにする。 ・ サインを用いながら相手に気持ちを伝えるようにすることで、年上の人に対して敬意をもった接し方になることを知り、繰り返し練習を行うことで、目線や相手との距離を意識しながら行うことができるようにする。		
<b>ふりかえる</b> (10分)	7 友達の実演の良かった点や気付いた点、本時の感想を発表する。 8 終わりのあいさつをする。	・ 本時の学習を振り返り、友達の実演の良かった点や気付いた点を発表したり、本時の学習の感想を述べたりすることで、充実感や成就感を味わうことができるようにする。 ・ 本時で学んだことは、社会人としての守るべきマナーであることを伝え、学習活動の中だけでなく、日常生活の中で、実践できるように言葉掛けを行う。		
		全：生徒の号令で授業の終わりをやりがいポイント		